

琉球大学学術リポジトリ

トラフコウイカ *Sepia pharaonis* における孵化後の昼夜活動性の変化

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム 公開日: 2008-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 阿部, 由紀子, 池田, 譲 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/4945

PS-14 トラフコウイカ *Sepia pharaonis*における孵化後の昼夜活動性の変化 (Shift of activity rhythm in *Sepia pharaonis* during post-hatching phase)

阿部由紀子 (Yukiko Abe)・池田 譲 (Yuzuru Ikeda)

琉球大学大学院理工学研究科海洋自然科学専攻

コウイカ類の多くは生活史初期に夜行性の行動パターンを示すとされ、日中は着底または砂への潜伏を行い捕食者から身を隠して生活するが、成長に伴い徐々に日中の活動性も増すといわれる。しかし、コウイカ類幼体の成長に伴う昼夜の活動性の変化を実際に明らかにした研究は少ない。そこで、本研究はトラフコウイカの活動リズムを飼育下で孵化時より長期間観察し、検証することを試みた。

沖縄島沿岸より採集した卵より室内にて孵化したトラフコウイカを、底質に砂を敷き詰めた円形水槽にて継続して集団飼育し、孵化時から1週間に2度、1時間毎に10分間の行動を連続する24時間デジタルビデオ記録し行動を分析した。

トラフコウイカは80日齢前後まで、日中(7時-19時)は底質の色彩に体色を似せた状態で座してほとんど動かなかったが、夜間(19時-7時)には底質上を移動または遊泳する個体が多く見られた。一方、80日齢以降には多くの個体で夜間に加えて日中にも活発な遊泳や底質上の移動が観察されるようになった。さらに、80日齢以降と比べると、80日齢以前は昼夜ともに活動個体の割合は低い傾向にあった。日齢ごとに日中と夜間の遊泳個体数の平均値を見ると、80日齢以前の夜間の遊泳個体数は1-6個体の間で大きく変動したが、日中の遊泳個体数は常に2個体以下と夜間に比べて低い値をとった。一方、80日齢以降は日中、夜間共に遊泳個体数は増加し、夜間の遊泳個体数は7-9個体、日中の遊泳個体数は3-8個体に増加した。

これらの結果から、トラフコウイカの活動リズムは孵化後夜行性であるが、80日齢以降は日中の活動性が増すことが明らかとなった。